

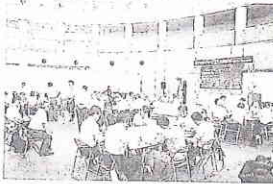
漂着ゴミの測量技術など討議

インフラメンテ
ナンス国民会議
近畿本部フォーラム開く 第 6 回

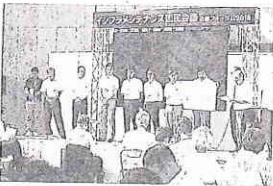
インフラメンテナンス国民会議近畿本部の第6回フォーラムは、このほど大阪市内で開かれ、施設管理者が抱える維持管理の課題解決へむけ、民間企業が有する技術を提供するなど活発に意見交換した。写真上下。

地方自治体から京都府や奈良県、大阪府、十津川村の13人、民間企業ら27社40人、国交省近畿地方整備局と中国地方整備局の5人が参加した。テーマは兵庫県の海上に漂着したゴミの測量技術や十津川村の人道吊り橋の効率的な補修技術・長寿命化技術、京都府の橋梁・ダム等・足場の設置困難な箇所が目視点検支援技術など計5つ。テーマごとに参加企業が技術提供し、具体化にむけた実効性を討議した。

ワーキング長を務める坂野昌弘関西大学教授は



「今後はドローンや人工衛星を活用する技術が中心となり、点検技術も新材料を積極的に活用する



提案が求められる」となどと総評で指摘した。

また同フォーラムに先立ち第3回ヒソチイベントも開かれ、第5回フォーラムのテーマ4つ(道路付属物の土中部の点検を支援する技術等)に対し、12民間企業から技術提案され、実用化にむけ調整することになった。